

令和2年度第2回北上川バレープロジェクトシンポジウム 知事メッセージ

令和3年3月12日（金）（ビデオメッセージ）

私たちは、この北上川流域を「北上川バレー」と呼んで、そこに住む人、関わる全ての人の幸福を高め、発展させていきたいと考えています。

私たちが「北上川バレー」の参考にしている「シリコンバレー」は、アメリカ・カリフォルニア州の、北は、サンマテオ周辺から、南は、サンノゼまでの長さ約50キロメートル、幅約20キロメートルの地域で、多くの起業家を生み出した「スタンフォード大学」があり、世界最先端のIT企業が集積しています。

一方、「北上川バレー」は、北上川の源泉、「弓弭（ゆはず）の泉」のある盛岡広域から一関市までの地域であり、豊かな自然、歴史や文化があり、1次、2次、3次産業がバランスよく発展し、教育、医療、福祉といった都市機能が充実するなど、「シリコンバレー」に勝るとも劣らぬ地域です。

そして、北上川は、流域に大きな被害をもたらした、カスリン・アイオン台風からの復興で整備した5大ダムなどの治水・利水の恩恵もあり、生活用水・農業用水・工業用水の需要を満たしてなお、余裕があります。この豊かな水の流れに沿って、新幹線や高速道路が走り、空港があります。世界遺産の平泉があり、温泉やスキー場も数えきれないほどあります。そこに、自動車や半導体などのものづくり産業が集積し、最新の技術や設備によって世界最先端の製品を生み出しています。生産と雇用も大きく伸び、全国でも例を見ない地域となっています。

「北上川バレー」のビジョンは、それぞれの地域の特徴ある産業が互いに結び付いて発展し、豊かな自然や歴史・風土に基づいた、衣食住を始めとする生活の豊かさと合わせて21世紀の時代にふさわしい地域を創造しようとするものです。

「北上川バレー」を成功させるためには、人材育成が必要です。岩手に暮らす若者には、地域の良さに気づき、将来の成長・発展に参画しようという意欲を持っていただかなければなりません。さらに、「北上川バレー」に、県外からも人が集まり、働き、定住する、そのような流れをつくる必要があります。

キオクシア岩手の新工場の起工式で、ウエスタンデジタルの戦略統括プレジデントであるDr.シバ・シバラムさんとお会いした際、私が、「この地域を『シリコンバレー』のようにしたい」とお話ししたところ、シバラムさんは、「それはできるでしょう。でも、そのためには、人材育成が大事です。」とお話しされました。

岩手県では、進学や就職により、毎年、約3千人の若者が県外に出ています。

県内にも素晴らしい企業があり、働く場所があるにも関わらず、非常にもったいないことです。

私も高校に出向いて保護者にお話ししていますが、県内の学生や保護者、学校の先生方にも、「働くなら岩手、住むなら岩手」という「まずは岩手」の考えを持っていただきたいです。「北上川バレー」という言葉によって、そのような時代になっているという意識転換をしていただければと思います。

まさに、「北上川バレー」は、「地方創生の北上川バレー」、「ふるさと振興の北上川バレー」、「幸福を守り育てる北上川バレー」です。

そのためにも、産業界や教育界、行政における協働の取組が大切です。

働きやすく、住みよい地域をつくるためには、まちづくりの主体である市町村との連携が特に重要です。

北上川流域という広大なエリアに、全国から人が集まり、働き、定住するという流れをつくるため、関係する市や町には積極的な参画をお願いします。

最後に、今年は丑年です。

彫刻家で詩人の高村光太郎の詩、「岩手の人」では、「岩手の人沈深牛の如し。地を往きて走らず、企てて草卒ならず、つひにその成すべきを成す。」とあります。

「丑年は岩手の年」です。

「北上川バレー」は、前沢牛をはじめ、全国有数の和牛の産地でもあります。そして、酪農も盛んです。

「成すべきを成す」という覚悟で、「北上川バレー」の更なる発展に向け、引き続き取り組んでいきますので、重ねてよろしくお願い申し上げ、私からのメッセージといたします。